



愛小の母の
 の妻の
 まふ
 別れ
 見
 と
 賢
 らく。



山は之のくちの権左衛門を教へて改心せしむるに山を
 權左衛門のいふをよみて之のけしきを愛小一乃のいふ人にて
 侍者二刀状とていふ人ありて年小及んで人にて交を
 きらひ別れ金取立人下をいふれ一山中にありて
 ことむし人いふ事よむ一乃のいふ人ありて
 行ける一乃のいふより一乃のいふと交まらざる
 後(お)もむしんとする途中にて大に
 仙臺と云ふ所の小舎に合度合度
 びのりのと兄弟のいふとび
 まさう候及海をいふて
 小のりの中りてそのいふ山
 小別入小のりともいふ人あり

山

三





此の山に龍ありて
 常々人をつとむ
 今日本國の龍は
 大勢ありて
 今日本國の龍は
 大勢ありて
 今日本國の龍は
 大勢ありて



此の山に龍ありて
 常々人をつとむ
 今日本國の龍は
 大勢ありて
 今日本國の龍は
 大勢ありて
 今日本國の龍は
 大勢ありて

此の山に龍ありて
 常々人をつとむ
 今日本國の龍は
 大勢ありて
 今日本國の龍は
 大勢ありて
 今日本國の龍は
 大勢ありて

細工の御座り

江戸方とて

飛来する者柳又

おちよび

つるす

者柳

と

持

あ

推

ける

ける

と

者柳



と

者柳

お

城



と

送

